

第2回岩見沢市市政改革懇話会 会議録（要旨）

● 日時、出席者等

日 時	令和6年9月25日（水） 13:20～16:30		
場 所	岩見沢市役所 3階 会議室 3-5		
出席委員	委員 阿 部 啓 吉 （株式会社コミュニティエフエムはまなす 代表取締役） 委員 木 村 聡 （岩見沢商工会議所 副会頭） 委員 角 美 弥 子 （北海道教育大学岩見沢校 准教授） 委員 米内山 定 雄 （岩見沢市町会連合会 会長） 委員 東海林 公 子 （いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議 代表） 委員 干 場 法 美 （岩見沢市町会連合会 副会長）		
欠席委員	委員 鈴 木 聡 士 （北海学園大学工学部生命工学科 教授）		
事 務 局	企画財政部長 小 泉 健 企画財政部企画室長 北 辻 寛 企画財政部企画室企画調整担当主幹 山 田 努 企画財政部企画室主査 二 木 ルミ子 企画財政部企画室企画調整係 金 子 拓 志		

● 会議録

次 第	発 言 者	内 容
1.開会		
2.挨拶		
3.協議事項		○会議資料に基づき、「令和6年度行政評価における外部評価について」の概要説明を行いました。 ※会議資料 別紙資料3、資料4のとおり 事務局及び担当課 【施策4－3生涯学習の振興と社会教育の充実】について、事務局及び担当課より、施策評価シートに基づき概要説明。 委員 最近では、学び直しの他、リスキリングという考え方も経済界を中心に出ていますが、そのような方向性で、新しいリスキリングの考え方を付け加えることはできないでしょうか。社会的要請だと思いますが、特に勤労者の方については、趣味とかではなく、仕事に繋がるような新しいことを学んでいきたいが学ぶ場がないというようなこともあると思います。 担当課 勤労世代の参加の少なさは重要な課題と認識しており、その意味では、若い世代を引きつけるために、仕事に直結するような話題を取り入れた講座を作ろうかということは、市民大学の実行委員会でも話題になっています。今のところまだ実現していませんが、今後はそういう観点も取り入れながら講座を決めたいと思っています。 委員 今、岩見沢には外国の方が300人位いらっしゃるということで、市内企業に結構な人数の外国の方が勤められており、国際交流の方で日本語教師の養成ということを商工会議所と岩見沢市で連携してやっています。これは全体的な話となりますが、外国人が増えることについて、市民のニーズや街のニーズを捉えて、例えば縦割りではなくて、横の連携で取り組んでいくことについての考

次 第	発 言 者	内 容
		えはどうでしょうか。
	事務局	ビジネス労働の分野だけではなく、そこに住まわれることによって色々な関わりというところも含めて、300 人が多いか少ないかという議論もあります。岩見沢は、特に本州の労働者が集まるような街と比べて少なかったという経緯は間違いないと思いますが、外国人労働者は既に増えてきていまして、街で見かけることが増えてきました。 これからもどんどん増えていくと思いますので、そこに対しては、総合的にどこかが 1 つ、中心となってコントロールする窓口というのは必要になりますが、色々な部局も関係してきますので、そこを全体調和でコントロールして、コミュニケーションを取っていく、そういう取り組みが必要であるということは、すでに今年度に入って、私どももそういう認識を改めて持って、現状、色々調査しているところです。おそらく、商工会議所さんにも話がいつていると思いますが、今後、取り組みを強化していきたい、何らかの形を見えるようにしていきたい、そのように考えております。
	委員	新しいこと、新しい流れですと、やはりなかなか従来の枠に入らないところが多いと思いますので、そこら辺の連携の考え方を柔軟に持っていただければと思います。
	事務局	今までの常識とは少し違う発想で、新しい方々が来るということになると、色々こちらでも準備しなければいけないことは多々ありますので、そこも勉強しながら進めていきたいと考えています。
	委員	市民大学と高齢者対象講座の回数自体は、コロナ前、平成 28 年とは変わっていないのでしょうか。それとも回数自体を増やされたのでしょうか。
	担当課	両方とも高齢者が多いものですから、まだ回数自体は戻っていません。
	委員	回数は 7 回、15 回のままで、一講座ごとに参加可能にしたら、増えたということですね。 いわびの利用者数ですが、サークルなどでずっと定期的に利用されている方のほかに、新しく利用し始めた方々がいらっしゃると思うのですが、その辺の割合はわかりますか。
	担当課	手元に資料はないですが、やはり割合としてはよく使う人の方が多いです。
	委員	使い始めたら使いやすさは分かるので、新しい人をどれだけ呼び込んでいけるか、そこでまた利用者を増やすことができると思いました。あと、勤労者層が 30 代からとなっていますが、20 代は入らないのでしょうか。
	担当課	20 代も含まれます。
	委員	20 代の方が、遊びに行ってしまうって学習活動をしていないのかと思ったりもしました。
	担当課	20 代も視野には入れています。
	委員	20 代には学生もいますし、働いている方もいらっしゃる、その辺も色々あると思いますが、若いうちに色々学んでいただきたいと思います。

次 第	発 言 者	内 容
		あと 1 つ、今後の方向性のところで、多様化する市民ニーズを踏まえてとありますが、その市民ニーズをどこから拾ってきていますか。
	担当課	各施設の利用者からのアンケートをはじめ、今年度は、社会教育計画を見直しており、その中で、社会教育施設全施設の利用者にアンケートを取っています。そのようにして随時・定期的にご意見をいただいているという状況です。
	委員	施設を利用しない方のニーズの把握は。
	担当課	施設を利用しない人のニーズについては、ホームページでも意見を求めているところです。
	委員	働いている方の講座への参加が目標に達してないということで、実績がB評価ということですが、今の時代、講座をやるから来てと言っても、なかなか行けないと思います。オンラインなどの手段の部分で、これからこうしたいということがあれば伺いたい。
	担当課	オンラインは、市民大学に限らず必要に応じて取り入れていきます。今後、オンラインの講座と対面の両方を用意して、どちらが多いか検証していきたいと思っています。今年度はオンラインはやっていませんが、これからは取り入れる方向で考えています。
	委員	社会教育施設管理事業の令和 5 年度 1 億 6000 万円の内容は何でしょうか。 それから、郷土科学館管理事業で、栗沢と北村にも歴史に関わる資料があり、それらを整理しながら 1 か所に集約するというところでやっていると思いますが、スケジュールがどうなっているのかお伺いしたい。 また、生涯学習センター管理事業の人材バンクについて、人に関わる団体ということになっていると思いますが、どんな関係者あるいはどんな団体が人材バンクにおられるのか、教えていただきたい。
	事務局	社会教育施設管理事業では、旧栗沢文化センターの解体を行っております。何年かに一度、改修や解体等で大きな動きがありますとここに予算計上されるものですから、たまたまこの年の数字が大きくなっているということです。
	担当課	残り 2 点の回答ですが、まず 1 点目、郷土科学館の整備スケジュールですが、各所に置いてある資料のデータベース化を進めており、品数が多いことから、あと数年かかると見込んでいます。その前段として、現在、一階の円形ホールを一周して、岩見沢の歴史が学べるようリニューアルを進めています。今年の秋には見せられると思いますが、それと並行しながら全体の整理にあと数年いただきたいと思っています。 次に、人材バンクについてですが、エアロビクス、家庭教育、子どもと遊ぶサークルなど、様々な団体が入っています。人材バンクは個人もありまして、仕事を教える人の登録があるなど、バラエティに富んだ人材バンクとなっております。
	委員	図書館に司書は何名いますか。職員全員が司書の資格持っていますか。
	担当課	司書は 9 人いますが、正職員には司書ではない者もいます。 正職員が 4 人で、会計年度任用職員が確か 11 人です。司書 9 人は会計年度任用職員を含めた人数です。職員では、係長が司書資格を持っています。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	貸し出し冊数が、平成 28 年の 4.78 を基準に現在は 4.11 というのは、全国的にはどれぐらいの位置になるのか。全国的あるいは全道的にも、図書館の本の貸し出し冊数に関するデータは公表されているものか。 岩見沢の図書館で色々な本を揃えるという魅力作りで、大きく集客は変わると思うので、その辺が合っているかどうかという目安にはなると思うので、次の公表時までにはわかればお願いしたい。
	委員	市民大学及び高齢者講座の参加者数における高齢者数は、何歳からが高齢者か。
	担当課	65 歳以上が高齢者ですが、 実際参加しているのは、もっと高齢の方が多いと聞いています。
	委員	市民大学の受講者数に高齢者数というのが入っているのはなぜか。
	事務局	成果指標には、市民大学と高齢者講座を受講した方の人数ということで、市民大学を受けた高齢者ということではなく、2 つの講座を合わせた受講者数がここに入っています。
	委員	65 歳以上の人をカウントしているのですか。
	担当課	468 人には若い人も高齢者も入っています。高齢者講座は高齢者だけが受ける講座です。市民大学は全世代対象です。それぞれ別の行事で、高齢者講座は、岩見沢・北村・栗沢で同じ講座を去年 5 回ずつやっており、市民大学はいわなび 1 か所でやっています。数字はそれぞれカウントしています。
	事務局	1 点、補足ですが、先ほどの図書の貸し出し冊数について、2023 年に公開された 2020 年の数字ですけれども、その時点で約 3.73 となっていますので、それと比べると当市は比較的冊数は多い方かと思います。
	委員	増えた要因は何でしょうか。本の品揃えを良くしたからなのか、あるいはスタッフの対応を変えたからなのか。
	担当課	スタッフの対応は前から良いと思います。元々、現状値が 4.78 で今よりも上なものですから、まだ戻っていないという認識は持っています。
	委員	岩見沢の図書館では、電子図書を貸し出していますか。
	担当課	電子図書は貸し出していません。道立図書館は貸し出していますが、近隣で電子図書を貸し出している図書館は、なかなかないと思います。
	阿部会長	それでは最後に外部評価結果の確認をさせていただきますが、成果指標及び重点指標に関する評価の変更については皆様いかがでしょうか 【成果指標及び重点事業指標の評価変更に関する意見は特になし】
	事務局及び担当課	【施策 4－4 芸術文化・スポーツの振興】について、事務局及び担当課より、施策評価シートに基づき概要説明。
	委員	i-BOX についてももう少し具体的に教えてください。

次 第	発 言 者	内 容
	担当課	駅舎に中二階のフロアがあり、そこに市が所有し、大学と共同で運営している i-BOX というスペースがあります。ちょうど正方形のスペースなものですから、岩見沢ボックス、略して i-Box ということで、特に美術をやっている学生さんが自分で主体的に展示会をしたり、大学の情報を発信したりするスペースを駅の中に設けています。年間で、大体 2,000 人以上の方が、企画展に来られ、学生からも人気の高いスペースで、必ず何らかの展示をやっていますので、もし、駅に行かれることがありましたら、覗いてみてください。
	委員	今ちょうど i-Box のお話が出ましたが、最初は平成 21 年、約 15 年前で、今お話がありましたように非常に狭いところで、美術作品にしても、ちょっとしか展示できないということで、もったいないなと思います。 例えば、個展とかに行きますと 100、200 もの作品が出ているということを考えると、中途半端な施設と思ってしまして、チラシやポスターで情報発信ができているのですが、令和 4 年度の数字で 2,100 人ということは、回数は年間何回ですか。週末を除くと、年間 250 日ぐらいですから、1 日 7 人、8 人の世界で、場所はいいはずなので非常にもったいない。 有明交流プラザはもっと大きい空間があって、時々卒展とかは行っていますが、もっと何かに使えないのでしょうか。せっかくピアノも置いてありますが、制限があって利用されてないのかなと思いました。 教育大学の場合は、美術と音楽とスポーツが大きな分野で、特に、音楽、美術は、絵画ホールなどで色々なことをやっていますが、スポーツに関しては、連携事業がどのようになっているかよくわかりません。成果指標に教育大学との連携事業数とありますが、数しか書いていないので、評価は A ですが、中身がこの資料だけではよくわからない。伸びているから A という感じなのですが、基準値がないものですから、ただ単純にこの数だけで評価していいものなのかというところが非常に疑問です。連携と言いますが、予算額が 316 万ということで、ちょっと少なすぎる。もっと芸術文化にお金をかけていただいてもいいのかなと思っております。
	委員	i-Box は、あそこの閉ざされたところしか使ったらダメということですか。横に、ストリートピアノが置いてあるが、あそこも全部使っていいことになっているのか。
	担当課	基本的に i-Box はあのスペースだけですが、大きいものを展示したい場合や大掛かりの企画展の場合には、i-Box の前のスペースをお借りしています。展示できるパネルの貸し出しもありますので、そういったものをお借りして、あそこの前を使ってやったり、あとは、あそこのスペースを使って合唱の発表をやったりですとか、そういった音楽の発表などもしていただいています。確かに i-Box 自体は狭いので、大きいものを展示するとなると、当然、数も限られます。1 人の企画展ならいいのですが、例えば複数で展示をやるというのは当然作品も多くなります。そういったときには、その前のスペースを使ってパネルに展示をして、色々工夫させていただいているところではあります。 それと、連携事業の中身ですが、特にスポーツの方ですと、健康づくり推進課で実施している親子運動教室でスポーツをやっている学生に参加していただいたり、健康ひろばに学生が来て色々手伝ったり、そういった事業もやっております。14 の連携事業では生涯学習の連携事業が多いですが、先ほどお話をさせていただいたとおり、障がい者芸術、親子運動教室、あとはビジネスチャレンジプロジェクトという商工労政課の事業、学校給食など多岐にわたって取組みをさせていただいているところがございます。確かに、この 14 という数が多いか少ないかと言われるとそこはまた判断の仕方が難しいところではあります

次 第	発 言 者	内 容
	委員	が、連携は色々とさせていただいております。 NPO ハマナスアートで、以前、あそこで音楽会とかいろんな企画やってみたのですが、当時、振興公社さんの担当者の方が、芸術文化を理解されてない方だということで非常に苦勞して、あそこは使わないというスタッフの意見があったものですから使っていませんでした。今はどうかかわからないですが、改善されていることを望んでおります。 やはり、芸術文化が分かる、理解のある方を担当としていただけると、もっともっと教育大学も使っていくのではないかと思います。
	委員	せっかくあるのだから、今、お話があったように、絶対できないものは仕方ないけれども、もっと活用してもいいと思います。
	委員	i-Box の話が続きますが、やはり小さいものしかできないですが、学生にとっても人気があって、大きいものやもっと違うようにしたいと i-Box に相談に行くと、いろんな案内をしてくれるので、そういう意味で、情報発信をしている施設になっていると思います。
	担当課	成果指標のところに資料館と指定文化財の利用者数があるのですが、指定文化財を何かに活かしているのか、芸術文化・スポーツの振興の中でどのように扱っているのか、もう少し詳しく教えてください。この基本施策の中でも、郷土芸能の保存・継承とあるのですが、あまり郷土芸能について、何かをやっているというイメージができないし、重点事業ではないので、教えていただきたい。
	委員	まず、指定文化財については、現時点では、指定された文化財の保存にウエイトが置かれている状況です。 今年度の取組みでは、初めてとなりますが、大安寺という大願のお寺に阿弥陀像があって、住職を含めて、その設置に至った経緯・経過であったり、地元町会も巻き込んで、改めての学び直しといったイベントを開催しているところ。 新たな文化財の指定については、文化財保護委員会の方で、新たな指定に向けて、勉強中といった状況であります。また、郷土芸能については、すでに解散して、もう形もなくなってしまったものもあれば、太鼓の分野と獅子舞という 2 つのジャンルが細々ながら活動しています。これについても、黙っていたら自然消滅してしまうのはもう明らかなので、できる限り文化祭の場や芸術文化に特化したイベントのシーンで成果を発表する機会の確保に努めているところですが、去年、今年はなかなかスケジュールの都合もあって実現には至っていないという状況でございます。
	委員	郷土資料館で、もうなくなってしまった雅楽や獅子舞の映像を見ることができるのがやっぱりとても大切だと思うので、今残っている獅子舞とか、太鼓とかも、ぜひ、入れていただけたらと思います。
	担当課	今、活動している団体は、いつ閉じてしまうかわからない恐れもあって、そうならないように、双方知恵を出してはいるのですが、いずれなくなってしまうのであれば、今のうちに映像記録や活動記録としてデジタルで残さなければならぬことについても来年度からやりたいと思っており、相手方にも、そういった活動や練習の風景も含めて、お話し合いをさせていただいているところ。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	野外音楽堂というのは、Join Alive が行われる場所のことですか。太鼓をやったり Join Alive をやったりしていますが、その他に利用していれば教えてほしい。それと、スポーツセンターの横のステージは、今はもう全然活用されていないのか。
	担当課	スポーツセンターの隣は、2 年ほど前にもう用途廃止をして、壊せずに今に至っているという状況です。 もう 1 つのグリーンランドの方にある野外音楽堂は、通称キタオンといいます。その管理はハマナスアートに指定管理を委託しており、実際の使われ方としては、委員が認識されているぐらいの状況です。もう少し、色々な活用方策が見出せたらと思っているところであり、指定管理者を中心に使い方も含めて色々考えているというお話は聞こえてきます。民間ならではの使われ方といったところも期待しているところですが、実態としてはそのようなところでは。
	委員	Join Alive は岩見沢を宣伝している効果の高いイベントだと思っていますが、そればかりが目立ってしまい、岩見沢市民にとってもう少し活用法が明確にあればいいと思います。それと、郷土資料館の話ですが、文化財などをこれから整理・取捨選択するときに、北村・岩見沢・栗沢も同じものがあって、それらをどのように選別していくかというのは、保存状態のいいものや歴史的に価値があるものなど、構想的に整理されていると思いますが、その辺りの見解はどのように考えていますか。
	担当課	まず整理の方向性として、まだ具体的なものはありませんが、廃棄基準を作らなければならないと思っています。もし廃棄するのであれば、基準を作ることと、残すか廃棄するかを審査する会議体を作る、もしくは既存の会議体を活用する。基準と会議体、その 2 つをこれから設定して、その後に判断していくことになります。もちろん、全部整理が終わってからになりますが、並行してそちらも考えていかなければならないと思っています。
	委員	昔からの備品関係や寄贈を受けた諸々の地域ゆかりのものもあったと思いますが、栗沢工芸館を再開しないということであれば、郷土科学館へ全部持っていくだとか、どういう方向で考えているのか。
	担当課	工芸館に限らず、来夢にもあります。北村農業資料館の中にも今まだいくつかあります。もちろん郷土科学館のバックヤードにもいっぱいあります。それをデータベース化して、どこか 1 箇所に集めるというのはこれからですが、その 1 か所をどうするかを考えているところです。
	委員	重複するものは、ある程度整理するというのはあるのですが、それにしても 1 か所にとっても物理的にどうなのかということが気になりました。それと、資料館及び指定文化財を見学及び利用した人の合計というところの、資料館はどこを指しているのかと、この人数はどうやって把握しているのか。 大会とかであれば、事前に登録するからわかるけれども、施設は入口でカウンターを持って数えるというのはいかがなものか。どういう人数の数え方をしたのか。
	事務局	資料館には、郷土科学館の他に、栗沢に来夢 21 がありまして、その辺を合わせた数字が入っていると思われますが、確認します。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	郷土科学館の科学コーナーが、故障中ばかりですが、それはどうされるのか。こっちに来たときに初めて行って、この前行ったときもまだ故障中だったので、すごく懐かしいのは懐かしいのですが、このまま科学館でいかれるのか、どうされるのか。今後の文化のまちづくりにも関わってくると思いますので。
	担当課	郷土科学館の科学を担っているのはプラネタリウムが大きく、そちらについては色々と手をかけられていませんので、今後、そちらも気を配っていきたいと思います。
	委員	市民の文化祭の主催は文化連盟だったと思いますが、福祉のときには社会福祉協議会の会員の構成要因やボランティア団体数という指標もあり、中身を見て活動内容を強化していくというのがあったのですが、文化祭にしてもスポーツの日にしても、参加者数だけでは、母体の団体がどういう状況にあるのかが見えないので、実際に実施する主催者側の現状を見てかないと、今後、人数が増えるのが当たり前なのか、それとも人数は増えないけれども内容は充実するというような、数だけではない部分もあると思います。 今後、こういう評価をする場合に、そういう数値があると客観的に色々見ることができると思います。
	委員	先ほど、スポーツのところで構成団体が減っている状況の説明があったので、文化の関係についても、団体数が減っているとか増えているとか、当然その中には、年齢的に高齢化しているというようなソフト的な部分も、ある程度把握した中での趣旨かと思います。ある程度、新たな団体や平均年齢が若返った団体がこれぐらいあるなど、もし把握ができるのであれば、そういうことも指標としてもいいのではないかと。単純にA、Bの上げ下げというだけではなく、将来にわたって持続可能かという部分も加味したらどうか。
	阿部会長	それでは最後に外部評価結果の確認をさせていただきますが、成果指標及び重点指標に関する評価の変更については皆様いかがでしょうか
	委員	成果指標のスポーツの日の参加者数Dは低すぎる、Cでいいのではないかと。
	委員	岩見沢市の人口が毎年 1,000 人ぐらいずつ減っている中で、これは頑張っているという気がします。
	事務局	他の項目もそうですが、全体的に担当者の主観がやや出ている感じがするので、そこは、今年度ももちろんですけど、来年度以降、少し事務局の方で見て、公平にブレがないように努めていきたいと思っています。
	阿部会長	まず成果指標の評価を上げるということと、加えて付帯意見ということでは、人口が減る中でも、いろんな文化活動が持続していけるような方法の検討や、将来にわたって持続可能な取組みを評価するといったことを付帯意見したいと思います。
	事務局及び担当課	【施策3-3新産業の創出と企業立地の推進】について、事務局及び担当課より、施策評価シートに基づき概要説明。
	委員	地域経済の活性化と魅力ある雇用の拡大ということで、新規立地企業数は増えていますが、雇用の面についてどのぐらい増えたのかというデータはあるの

次 第	発 言 者	内 容
		でしょうか。
	担当課	今、手元に資料がないため、確認させていただきます。
	委員	基本政策を実現するための施策の評価ということであれば、雇用についてもある程度の成果指標があった方が適正な評価になるのではないかと思いますので、ぜひ今後、検討していただきたいと思います。
	委員	雇用が増えた、減ったというのは、データの的に後日わかるものですか。
	担当課	例えば、令和 5 年度に進出された企業になりますと、ちょうど今何人いるのかといった調査をかけているところですので、集計が終わり次第お示しできます。
	委員	地域イノベーション推進事業で、人材育成事業による研修修了者数が 89 人と記載されていますが、これも当然、雇用者に関わるところで、研修が終わった方はどうなっていますか。
	担当課	市民向けの研修を実施しておりまして、令和 5 年度は 89 人の受講があったという集計になっております。それに伴って、在宅就業の採点業務研修やテレワークで仕事ができる個人事業主の契約については、22 名が新たに契約をして、就業しております
	委員	89 人のうち 22 人が個人事業主で、残りの方はそれぞれの組織ということですか。
	担当課	働いていても学べる環境や機会を設けておりますので、会社勤めの方が研修を受講することもございます。
	委員	目標達成状況の市民の意識調査の満足度が、なぜここまで低いのかと思うところがあり、市民は何に対して不満なのでしょう。もしかしたら、あんまりよくわかっていなくて、不満に思っているのではないかと思いますのですが、理由で推測できるものはありますか。
	担当課	様々な取り組みによって一定の成果は出ているとは思いますが、例えば、工業団地への立地や企業の個別の設備投資、増産といったことは、一般の市民の方々にはなかなか分かりづらいというのが一因だとも考えています。確実な取り組みを継続していくというのがやはり重要であると考えておりますので、実績を積み重ねて、満足度改善を図ってまいります。
	委員	市民がわかっていないのではないかと思いますので、順位がなんともならないというのがあったりするのではないかと思います。 テレワークセンターは全部入ったら定員は何人ぐらい入れるのですか。
	担当課	2 棟あって、1 棟が 8 名ともう 1 棟が 12 名で利用できる形になっています。
	委員	長期間で、1 年間で空いている日はそんなにないというイメージですか。
	担当課	棟貸しが主になるので、やはり冬の期間はなかなか利用がないのが現状でございます。延べ日数でいきますと、令和 5 年で 123 日間利用していただい

次 第	発 言 者	内 容
		るのが現状です。
	委員	テレワークセンターを使った人たちから、使い勝手などについて意見を吸いあげたりしていますか。
	担当課	利用のアンケートは行ってございます。 虫の問題はありますけども、それ以外は概ね満足です。やはり知られていないという現状がございますので、ここは利用を促すというところで、市や指定管理者で取組む必要があると思います。
	委員	私も雇用の関係が重要だと思っています。雇用がないのに企業立地してどうするのだと、個人的にはそのような思いがあります。そこで、工業団地の占有率を教えてくださいたいのと、農業分野に企業が入りたいという話もあります。その部分は、農政部の所管で農地に建てたりなど色々ありますが、そこには雇用が生まれるので、経済部と農政部で連携しながらやっていただければいいと思いますがいかがでしょうか。
	担当課	まず、工業団地の占有率・分譲率について、一部貸付面積もありますが、こちらは 97.3%になっております。これはあくまで市の持分の工業団地で、これとは別に南空知流通工業団地がありますが、こちらは北海道の土地開発公社の所有です。そちらは今回の数字には入れておりません。それと、農政部と経済部が連携してというお話ですが、今まさに連携しておりまして、例えば肥料の関係など、企業の方で農業関係のニーズがある企業がたくさんいますので、そういった場合は、農政部の方と連携して、適地や規制の関係などをクリアしながら、1 番いい方法で立地に結びつけていくような動きをしているところでございます。
	委員	テレワークセンター管理事業の内容を教えてください。事務事業一覧には 2 棟を運用と書いてありますが。
	担当課	テレワークセンターは、いわみざわ公園に 2 棟ありまして、貸家のようなイメージで、ICT などが利用できる施設です。企業が岩見沢に進出する前段の施設として、岩見沢のテレワーク施設に泊まっていただいて、通信環境や仕事環境などを見ていただいて、そこで何日間か過ごしてもらい、実際に岩見沢市の施設とか、いろんな部分を見てもらうような、滞在型の施設を整備しております。
	委員	テレワークセンターの評判はどうでしょうか。
	担当課	やはりコロナ禍にあった中で、首都圏企業の会社に行って仕事をするという環境から、自宅で仕事ができるというテレワーク環境がだんだん広まってきたことを受けて、北海道で仕事をするというような流れもあり、昨年度については増えている状況でございます。最近、また会社に戻るという流れもありますので、難しいところはございます。
	委員	地域イノベーション推進事業に可搬型蓄電機能（電動農機）とありますが、どのような電動農機なのですか。
	担当課	バッテリーで動く仕様の草刈り機で、蓄電・充電ができるものを、昨年、日立北大ラボの方で開発しました。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	それで草刈りをするというイメージですか。
	担当課	北村温泉のメタンガスを活用して発電を行い、その発電した電気をバッテリーに充電して、走って、草刈り作業ができるというような機能のものを開発しました。
	阿部会長	それでは最後に外部評価結果の確認をさせていただきますが、成果指標及び重点指標に関する評価の変更については皆様いかがでしょうか。
	事務局	先ほど、雇用関係を入れた方がいいとのご意見があり、こちらとしてもそう思いますので、ここで反映させていただきたいなと思います。
	阿部会長	では、事務局の方で整理していただき、そのようにお願いします。
	事務局及び担当課	【施策３－５地域資源を活かした観光の振興】について、事務局及び担当課より、施策評価シートに基づき概要説明。
	委員	岩見沢市のいいところは、バラ園やあやめ公園、メープルロッジ、ポプラ並木などで、なかなかいいところというのは、札幌のようにはないと思います。 ですので、このようなところを使わないとなかなか集客数も増えず、いつも同じようなことをやっても良くなりませんと思います。メープルロッジもすばらしい施設ですので、何で、もっと活用しないのかなと思います。それと、彩花まつりは、昔は彩花まつりではなく、あやめまつりだったと記憶していますが、そういうものは、やはり名前を変えたらダメだろうと思います。昔からの歴史がありますので、どうして変えてしまったのだろうと思いました。
	委員	岩見沢市の観光分野における目標は、成果指標にあるように対外的なもので、岩見沢市民以外の人たちになるべくたくさん来てほしいというのが成果指標として設定されているのですが、観光協会の主な事業は、彩花まつり、百餅まつり、ドカ雪まつり、きたむら田舎フェスティバル、くりさわ農業祭、これらのお祭りをいかにやっていくかというところに、かなりのエネルギーが使われて、対外的なものも当然、スタッフもきちっとやっていますけれども、方向性が２分されていると言いますか、観光協会はなんとなくお祭りをやる場所だろうという。そういう市民はたくさんまだいらっしゃいますので、そうすると、この市の意向とずれているところを、どうしたらいいのだろうと感じます。
	委員	ホームページのアクセス件数が成果指標になっているのですが、Instagramもやられていますよね。
	担当課	観光協会で活用しております。
	委員	「いいね」の数やインプレッションの数も入れた方がいいのではないかと思います。もう今、若い人たちはホームページまで行かないので、全部Instagramやtiktokで情報収集が終わってしまいます。そのような数も指標に入れていただけるといいのではないかと思います。 それと、メープルロッジの宿泊者数は、MAX100%、365日とか全営業日数でいくと、どのくらいになるのでしょうか。
	担当課	定員の数値が手元にないため、確認します。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	この 9,000 人、8,000 人や、80%、70%が増えるのはいいのですが、いずれ限界がありますので、宿泊者数よりかは利用者数の方が正しい数値が出るのではないかと思います。 あとは、観光入込客数で、イベントが彩花まつり、百餅まつりはいいと思うのですが、ドカ雪祭りとかは、それこそ雪が降って誰も来られない可能性があります。ありそうなので、天候のことも考えて評価をした方がいいと思いました。 それと、メープルロッジも遠いですが、岩見沢という場所のアクセスをどのように考えていらっしゃるのか。万字まで行くコミュニティバスがあり、前の中央バスの時と比べて利用者数も増えたようですが、みんなバスをあんまり利用せずに、当然自家用車で行かれると思うのですが、新千歳から札幌を通らずに直接来られるようなことはできないのかと思ったりします。結構近いので、観光地があるので来てというのではなく、積極的にツアーを組んでみていいのかなとは思っています。 メープルロッジの宿泊者の数字の出し方ですが、人気ということで宿泊者数も限界に近いということもありますので、数だけではなく、割合などで出された方がいいのかなと思いました。また、市内宿泊施設は主なものだけですか。イベントをうまくばらせるようにした方が宿泊者数が増えるのではないかと思います。ホテルの方もせっかく満室になりそうなのに、重なっていると。なので、その辺のスケジュールとかも考えていただけるとありがたいと思います。 また、私は職場までバスで行くのですが、岩見沢公園行きに乗ったら中国語が話されていたので、中国の方も来られるのだなと思いました。そういえば、観光協会の中国語のパンフレットがあったりしたので、バラ園が綺麗だったりとか色々あるので、好きな人はきっと目指してくると思いますし、インバウンドが本当にいいのかどうかはさておきまして、せっかく来てもらえるのであれば、それに対する整備を少しずつやっていけたらいいのかなと思います。
	委員	成果指標の宿泊者数の関係で、メープルロッジは 15 室とのことでした。そうすると、単純に令和 5 年で割り返すと、1 日あたり 23.7 人となりますが、何の数字の積み上げがベースになっているのかよくわからない。1 部屋に 2 人泊まったりしているところもあるだろうと思うのですが、宿泊者が平均でかなり多いのでしょうか。
	担当課	繁忙期になると、エキストラベッドを使用して 1 部屋あたりの定員よりオーバーして、使用することがあります。例えば 2 人部屋に 3 人入るとか、そういうことがかなりあります。
	委員	そう考えると、稼働率は 100%になるのか。
	担当課	定員稼働率と客室稼働率がございます。今、こちらに載せているのが定員の稼働率です。ですので、客室ですと、2 人部屋に 1 人しか泊まらなくても 100%となり、例えば 2 人部屋に 3 人泊まったら、定員稼働率でしたら 150%という計算になります。実際、メープルロッジの令和 5 年度の定員稼働率で申し上げますと、71.6%、宿泊者数が 8,586 人なので、大体 1 万人少し超えるところが定員数になると考えております。
	委員	中身がわからないのでイメージが湧ききらないのですが、仮に 15 室あるとすれば、単純に 2 人ずつ泊まって 30 人ということ。それ以外にも泊まれるスペースがあるということですか。
	担当課	1 部屋定員 2 人だとすると、先ほど申し上げましたとおり、簡易ベッドをご

次 第	発 言 者	内 容
	委員	用意して 3 人まで泊まれるとか、また、普通のツインのルームではなく、メープルロッジにコテージという少しランクが高い部屋が 2 部屋ありまして、そちらは 2 人ではなく 5 人まで利用可能とか、そのような部屋もございます。
	委員	それと合わせて、市内の宿泊施設の稼働率は、カウントとしては部屋数なのかあるいは宿泊人数なのか、何がベースになって率が出てきているのでしょうか。また、ここにはメープルロッジは含まれていないということでしょうか。
	担当課	温泉施設で、北村温泉とメープルロッジ、その他にホテルサンプラザ、ホテル 4 条、ホテル 5 条、ホテルニューカワチュウで、6 施設となっています。あくまでこちらも定員稼働率で 50.7%なのですが、客室稼働率で見ますと 67%となっています。
	委員	メープルロッジの宿泊者の市内、市外の内訳を教えてください
	担当課	正確な数値は持ち合わせておりませんが、市内が 10%程度です。
	委員	メープルロッジの宿泊料金について、条例で上限が決まっていますが、季節・天候で多少変更していいとはなっていますが、料金を上げるには条例改正が必要になってくるので、なかなか厳しいと思いますが、例えば、岩見沢市民は上げずに、市外や海外の方々からもう少しいただいてもいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。
	担当課	先ほど、稼働率は良いのですが、収支状況等はそれほど良好ではないというお話をさせていただいたところですが、今、専門家を入れまして、その辺の価格に関しても色々検討していて、今後、条例改正も含めて検討している最中でございます。
	阿部会長	それでは最後に外部評価結果の確認をさせていただきますが、成果指標及び重点指標に関する評価の変更については皆様いかがでしょうか。 【成果指標及び重点事業指標の評価変更に関する意見は特になし】
4.その他	事務局	○第 3 回懇話会のご連絡を行いました。
5.閉会	事務局	本日の議題については、滞りなく終了しましたので、これをもちまして、令和 6 年度第 2 回市政改革懇話会を終了いたします。